

---

---

# 反貧困のための社会デザイン

—人間関係の“溜め”をつくるために—<sup>1)</sup>

福祉系NPO法人他 専門職2005年卒 須田 研 一

---

---

## 1. はじめに

高度経済成長期、日本社会は終身雇用制と年功序列制の下で、一億総中流社会を築いた。それが90年代前半のバブルの崩壊とグローバリゼーションの波のなかで、古き良き時代の在り方が崩れていった。2001年4月に誕生した小泉純一郎首相は、“聖域なき構造改革”を旗印に、規制緩和や民営化によって経済を活性化させる政策を推し進めた。いわゆる新自由主義路線（小さな政府論）である。確かに、小泉改革によって景気は回復したのかもしれない<sup>2)</sup>。しかし、その一方で破壊されたものもあった。度重なる労働者派遣法の改正—製造業への派遣を解禁したこと—は、正社員減らしに寄与し、3人に1人を超える労働者が非正規雇用となった。また、年収200万円以下の労働者も年々増加し、現在は1千万人を超えている。そうして、かつては一億総中流といわれた日本社会は、「勝ち組・負け組」といった二極分化がすすみ、貧富の差が拡大した格差社会へと変化した。その結果が“派遣村”をも生み出したのであろう。

さらに、新自由主義（市場原理主義）がもたらした弊害は、人々の経済的な問題だけでなく、人々の連帯感をも喪失させた。むしろこちらの方が問題なのかもしれない。それは、昨年度（2009年）

の湯浅誠氏と藤田孝典氏の講演・報告でも言及されている。湯浅氏は、今日的な貧困は経済的な「溜め」や精神的な「溜め」、人間関係の「溜め」がないことが問題だ、と言った。また、著書『どんとこい貧困』（理論社）のなかでも、「「貧乏」と「貧困」の違いについて、「貧困」は“溜め”がないこと、つまり単にお金がないだけでなく、頼れる人間関係や、「やれるさ」という前向きな気持ちをもちにくい状態を指す。逆に言うと、たとえお金がなくて「貧乏」でも、周囲に励ましてくれる人がいて、自分でも「がんばろう」と思えるなら、それは「貧乏」じゃない」と述べている。

一方、藤田氏は、「現代の貧困問題は何が問題なのか」について、人々の「孤立」化をあげた。彼を訪ねてきた多くの相談者には、他に相談できる相手も、頼れる家族や親族もいなかった。それ故に、経済的貧困とともに人間関係の貧困に着目する、と語った。確かに、親族や家族、友人などの人間関係が保たれていれば、藤田氏のいうように、「生活保護制度があるよ」とか、「こういう制度を使ってみたら」「こういう知り合いに助けてもらったら」とアドバイスしてくれる人がいたら、生活困窮状態に陥らなかったかもしれない。人と人とのつながりをもつことがいかに大事であるか

---

1) 本稿は、2010年3月、研究誌『福祉文化研究Vol.19』（日本福祉文化学会）に掲載された『つながりと共生を求めて』を、大会テーマに則して書き改めたものである。また、当初は大会のテーマのなかにあった「ポストモダン」の語句をタイトルの頭につけ、「ポストモダンにおける反貧困のための社会デザイン」としていたが、字数との関係から「ポストモダン」について言及しなかった。「注」の場を借りて言及すれば、近代（モダン）を中央集権型社会とらえ、ポスト（後）を地方分権型社会と見立てて論を展開したかった。全国画一的な中央集権型では、もはやうまくいかなかった。これからはローカルな地方的な特色を打ち出し、「現場」の声・状況をどうかすかだらう。分権改革は、人間関係の構築（溜め）をつくる可能性を生み出し、地域再生の条件となる。機会があれば掘り下げてみたいと思う。

2) 小泉政権下の2002年1月から景気の拡大は2007年10月（69ヶ月）まで続いた。いわゆる「いざなぎ景気超え」である。

がわかるし、それに異論を唱える人はいないであろう。つまり、誰をも排除することなく、いかに人と人とのつながりをもてる環境をつくっていくのかが問われているのだろう。

そこで、本稿では人間関係の貧困に着目して、排除の実際として、障害のある人を例にして、反貧困のための福祉課題について探っていきたいと思う。

## 2. 人間関係の希薄化

昭和30年代をリアルに表現した映画『三丁目の夕日』が中高年層にヒットしたのは、当時の地域コミュニティを懐かしく思っていたことであろう。現代において「地域福祉」が重要視されるのは、地域コミュニティが衰退し、人間関係が希薄化していることと無関係ではない。その原因については、少子高齢化や核家族化の進行、都市化の問題など、いろいろ考えられる。そして、お互いが関わりを持たない（隣の人が何をしているのかわからない）社会へとなっていった。独居老人の孤独死はその典型だろう。かつてと現代とでは地域コミュニティの在り方がすっかり変わっているのだ。

身近な例として、生活協同組合（以下、生協）の事業をみるとよくわかる<sup>3)</sup>。生協の事業の一つとして小売事業がある。業態は無店舗販売事業（以下、共同購入）と店舗販売事業である。このうち生協の成長を長く支えてきたのは、共同購入事業である。共同購入事業とは、3人から10人（地域生協によって異なる）の近隣住民が集まり、「班」組織をつくって商品を購入するシステムである。かつては、ご婦人たちによる井戸端会議がそこで展開されてきたのであるが、今はそれも廃れてきた。1980年代後半から、都市圏を中心に「班」がつくれなくなり、1990年代に入ると、それは地方へも波及していったのである。そして、「班」による共同購入はシェアが落ち込み、現在は各個人

宅への個別配送（宅配）が主流となっている。女性の社会進出など、確かに日中に人がいないという現実もあるであろう。しかし、宅配のシェアが伸びているのは、人間関係がわずらわしいなどのニーズも背景にあるのである（コープニュース 2001年1月）。

生協事業の変遷を見ても、地域住民同士のコミュニケーションの場がなくなりつつあることや人と人がつながりにくい環境にあることは確かなようである。それでは、地域コミュニティが再生できれば人間関係の「貧困」は解決できるのだろうか。答えは否である。問題は地域コミュニティの再生だけにとどまらないのである。

## 3. 排除の実際

### ① 教育からの排除

中学教諭の三戸学は、障害者教員を採用することが「子どもたち一人ひとりの豊かな人権意識を育てていくものと確信する」と言っている。三戸自身も生まれつきの脳性マヒで、手足と言語に障害をもつ。給食でパンの袋が開けられないときは、生徒に「開けてください」と頼む。そうしたやりとりが日常化すると、「お互いに助け合って生きていこう」と言わなくても、生徒はごく自然な形で助けてくれるようになる。こうして生徒たちは障害を持った先生を通して、人には「できること」と「できないことがある」という差異を理解し、人を思いやる気持ちや自分を大切にすることを育つのではないかと述べている<sup>4)</sup>。

また、車いすユーザーの安積遊歩は、「私がいることで、まわりの人間は、テストの点数以外の価値観を育てざるをえなかった。（中略）いくら道徳や掃除の時間に『お互いに助けあい思いやるのが大切です』なんて口で教えたって、点数で人を刻むのだから、そんなことばは子どものところに届きやしない。どういうことだかわかりっこない。でも、実際に目のまえに私がいることで、

3) 筆者は、全国の生協の連合会（日本生協連、正式名称は日本生活協同組合連合会）にバブル期に入協し、15年ほど働いた経歴をもつ。

4) 「私の視点」朝日新聞朝刊、2007年2月1日

クラスのみんなは助けあう場面を体験し、知らず知らずのうちに、その大切さを感じとっていった<sup>5)</sup>と学生時代の経験を語っている。

実際に障害者がいることで、人々は助け合いを必要とする状況に直面する。頭で考えるより前に、その大切さを実感し、障害のある人たちとの付き合い方も自然とわかってくる。そうすれば「障害／非障害」という垣根も低くなっていくことが両者の経験談からわかる。

さらに、前出の水戸は、障害を持つ子どもたちに職業選択の一つとして「教員」を意識してもらい、「先生」を志す人を増やしてってもらいたいという。解釈すれば、障害のある教員が少ないということだろう。それでは、なぜ、障害を持つ教員は少ないのであろうか。

たとえば、某大学の入試要綱を見ると、枠線で「身体の機能に著しい障害のある方は、受験および就学が不可能な場合も有りますので、出願の前に相談してください」と書かれている。つまり、障害をもつ人は大学受験の段階ですでに制約が課せられているのである<sup>6)</sup>。

このように教員を目指す過程において、障害のある人は、非障害者と対等な条件の下にないということである。すなわち、自由に大学を選択（受験）することができない時点で、障害者が教員を目指す過程には高いハードルがあると言えるのではないか。

## ② 就労からの排除

民間企業や国・地方公共団体は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、法定雇用率に相当する人数以上を雇用しなければならないとされている。しかし実際は、平成18年6月現在、民間企業（常用労働者数56人以上）における法定雇用率は、1.8%に対して1.52%となっており基準

を下回っている。しかも法定雇用率が制度化されてから、一般企業の障害者雇用は一向に進んでいない。その理由をDPI（障害者インターナショナル）日本会議は、「法定雇用率が、雇用促進法に基づき、未達成企業も納付金という「お金さえ払えば、障害者を雇用しなくてもいい」という感覚から抜けきれていないからだ」と指摘する（ホームページから引用）。

さらに言えば、利潤追求を目的とした資本主義社会では、生産性を生まないものには投資をしない。非障害者に比べて生産性の劣る障害者は、企業にしてみれば雇うよりも納付金を払ったほうが安くつくといった考えもあるだろう。

また、菊野一雄は障害者雇用率の低迷の原因として、「日本社会の同質性」をあげ、「我が国は欧米の契約社会における「個人主義」に対比されるところの「集団主義」ないし「出る杭は打たれる」社会であり、「異質なもの」を排除・差別しがちな社会である<sup>7)</sup>」からだと言っている。

## ③ 法からの排除

車いすユーザーの朝霧裕は、障害者自立支援法のもつ問題点を指摘する。朝霧は障害者自立支援法では「「就労時間は介助者をはじめしてください。」「就労や、通勤、通学には介助派遣を認められません」との行政からの指導を受け、「介助をはじめなければいけないのでは、勤務中、食事もできなければ、トイレにもいけない。なら、しかたがない」と、(中略)〈人間としての尊厳の上に成り立つ一縷の希望〉としての〈ようやく手にした職〉を辞し、生活保護に逆戻りする事例もある<sup>8)</sup>と言っている。障害者を働かせないための法ではないかと批判する。

以上のように、障害のある人は、排除の対象に

5) 安積遊歩『癒しのセクシー・トリップ』太郎次郎社、1993；pp.65-66.

6) 実際に、現在、某国立大学の後期博士課程に在籍している私の友人—身体障害者手帳1級を所持する電動車いすユーザー—は、大学院修士課程を受験する際に、いくつかの大学に断られている。

7) 菊野一雄『現代社会と労働』慶応義塾大学出版会、2003；p.82

8) 朝霧裕『たったふたりの健常学』『障害学研究5』明石書店、2009；p.194.

なりやすい存在だと言えるであろう。すなわち、障害をもつ人が「つながり」を求めて社会へ出て行くためには、教育や就労の機会均等の保持及び法の問題やマジョリティの意識など、さまざまなハードルを乗り越えていかなければならないのである。

#### 4. 人間関係の“溜め”をつくるには

福祉士を養成する学校では、平成21年度の入学から、新しいカリキュラムに則っての養成教育が始められた<sup>9)</sup>。たとえば、介護福祉士養成課程では、『人間の理解』や『障害の理解』について学ぶ。確かに、テキストで人間や障害(者)を理解することは大切なことではある。しかし、理解する前のプロセス(過程)として、まずはふれあい、知り合うことこそが必要であろう。人はふれあってこそ、人を理解することができるようになるのではなからうか。障害のある人の話を聴くことで、その人の気持ちもわかるようになる。そうして人と人がつながっていく。

そのためにも、障害者(さらに言えばマイノリティな人々すべて)とふれあい、知り合う機会を増やしていくことが必要であろう。そして、教育を受けたい、学びたい、働きたいというマイノリティな人々を社会へ押し上げていく、そういった支援も必要とされるであろう。換言すれば、つな

がり共生のプロセスにおいて、「いま、ここで」アプローチしなければならないことは、マイノリティな人々を非障害者と同じ土俵にたたせるということである。

それが、これまで見てきたように、障害者而非障害者とのつながりを阻害する(社会的に不利益を被る)要因—障害者自立支援法や障害者の法定雇用率の問題、教育における排除などがみられているところに今日的な問題があると思うのである。したがって、人間関係の“溜め”をつくるためには、そういった阻害要因を問い直してしていくことこそが求められているのではないだろうか。

本稿では、主に障害のある人を例に取り上げてきたが、最終的には、障害のあるなしにかかわらず、すべての人々がつながる社会(溜めをつくる社会)を創造していかなければならないことは言うまでもないことである。

#### 参考文献

- J.リップナック, J.スタンプス『ネットワークング—ヨコ型情報社会への潮流』プレジデント社、1984
- 湯浅誠『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008
- 本間義人『地域再生の条件』岩波新書、2007

---

9) 認知症の者や医療ニーズの高い重度の者が増加するとともに、成年後見や障害者の就労支援など、国民の福祉・介護ニーズはより多様化・高度化してきている状況にあることや、平成19年11月の「社会福祉士及び介護福祉士法」改正と併せて、より一層質の高い社会福祉士及び介護福祉士を養成していくことが求められたことによる(「社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」厚生労働省ホームページ参照(2009年6月1日取得))。